

強者の戦略

2022年度 東大地理 第1問〔問題編〕

世界規模の事象の分布や変化に関する出題です。人獣共通感染症という耳慣れない単語に受験生は戸惑ったことと思います。しかも、東大らしい何とも書きにくい問題が多いので、なおさら平常心を失ってしまい、本来の実力を出せなかった人もいたかもしれません。皆さんは、恐らく自宅で落ち着いて解くことができると思いますので、時間を気にせず満足のいく答案を作成してほしいと思います。

【2022年度 東京大学 文科前期 第1問】

世界規模の事象の分布や変化に関する以下の設問A～Bに答えよ。解答は、解答用紙の(イ)欄を用い、設問・小問ごとに改行し、設問記号・小問番号をつけて記入せよ。

設問A

人獣共通感染症とは、人とそれ以外の動物の両方に感染または寄生する病原体により生じる感染症である。人獣共通感染症の発生件数は、1980年代から2000年代にかけて4倍に増加しており、その背景には、a)動物性タンパクの需要増加と畜産の拡大、b)人と野生動物との接触機会の増加、c)土地利用形態の変化、d)地球温暖化、などが要因として挙げられている。

これらの要因の関係をモデル化し、野生動物に由来する人獣共通感染症の発生リスクを示したのが図1-1である。分析が行われた2017年時点で、野生動物に由来する人獣共通感染症が発生しやすい地域が可視化されている。

- (1) 人獣共通感染症の増加の要因のうち、上記のa)～d)以外の社会経済的要因を1つ答えよ。
- (2) d)の地球温暖化がどのように人獣共通感染症の増加に影響するか、以下の語句をすべて用いて、2行以内で説明せよ。語句は繰り返し用いてもよいが、使用した箇所には下線を引くこと。

媒介生物 気象災害

- (3) 図1-1で南アジア・東南アジアから東アジアにかけての地域が高リスク地域となっている。この理由を、この地域の自然環境と生業の観点から3行以内で説明せよ。
- (4) 日本も野生動物に由来する人獣共通感染症の発生リスクが高いことが図1-1から読みとれる。また、日本では近年発生リスクがさらに高まりつつあると考えられているが、その主要な原因を、前記のb)人と野生動物との接触機会の増加、c)土地利用形態の変化、と関連づけて2行以内で説明せよ。

強者の戦略

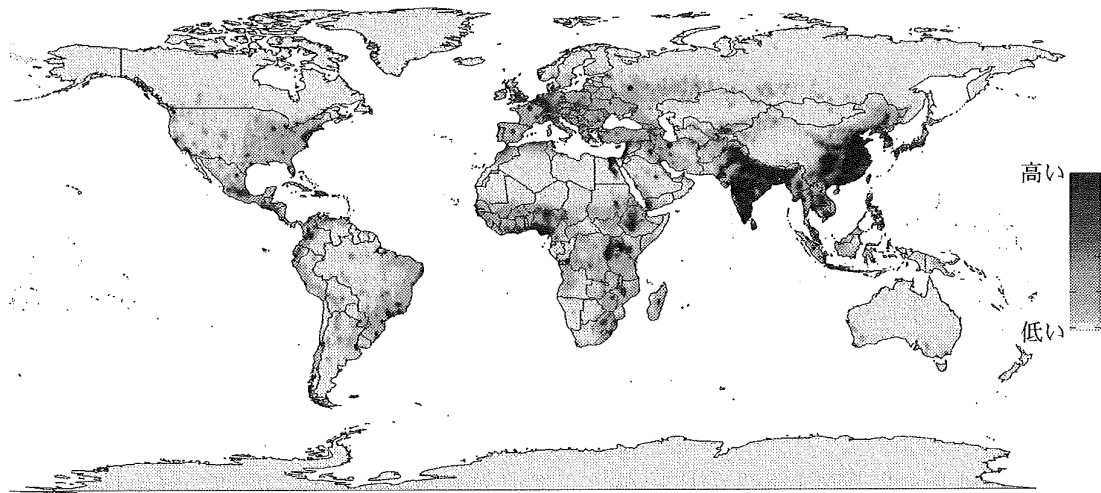


図 1-1

Allen ほか, 2017 による。

設問 B

図 1-2 は 1784~1863 年の 80 年間における船の航路を, 図 1-3 は 1980~1997 年の 18 年間における船の航路を示した地図である。二つの図は, 船上での定期的な気象観測の記録や航海日誌などに記載された船の位置を, 線をつないだものである。海岸線などの他の情報は描かれていないが, 多くの場所で大陸の概形を読みとれる。

- (1) 図 1-2 では, 赤道付近と中緯度において水平な帯のように見える航路の集まりが見られる。これは, ほぼ特定の緯度に沿って船が移動する傾向があったことを示す。この理由を, 当時の船の構造も考慮して 2 行以内で述べよ。
- (2) 図 1-2 は図 1-3 よりも対象とする期間が長いにも関わらず, 航路の密度が低く, 19 世紀以前の水運は近年よりも規模がかなり小さかったことを示す。ただし, 図 1-2 の時期にはかなり活発であったが図 1-3 の時期にはすたれた水運の経路も読みとれる。すたれた経路の例を挙げ, その理由とともに 2 行以内で述べよ。
- (3) 図 1-2 と図 1-3 の比較から, 水運の分布の拡大や, 水運の経済性を高めるために行われてきた技術的な進歩を読みとることができる。その内容を, 以下の語句をすべて用いて 3 行以内で説明せよ。語句は繰り返し用いてもよいが, 使用した箇所には下線を引くこと。

高緯度 等角航路

強者の戦略

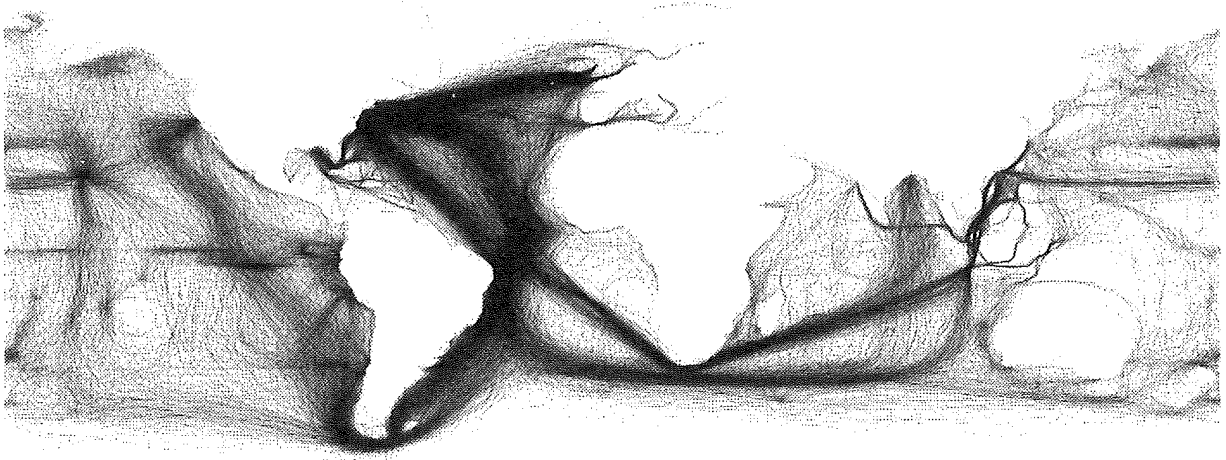


図1—2

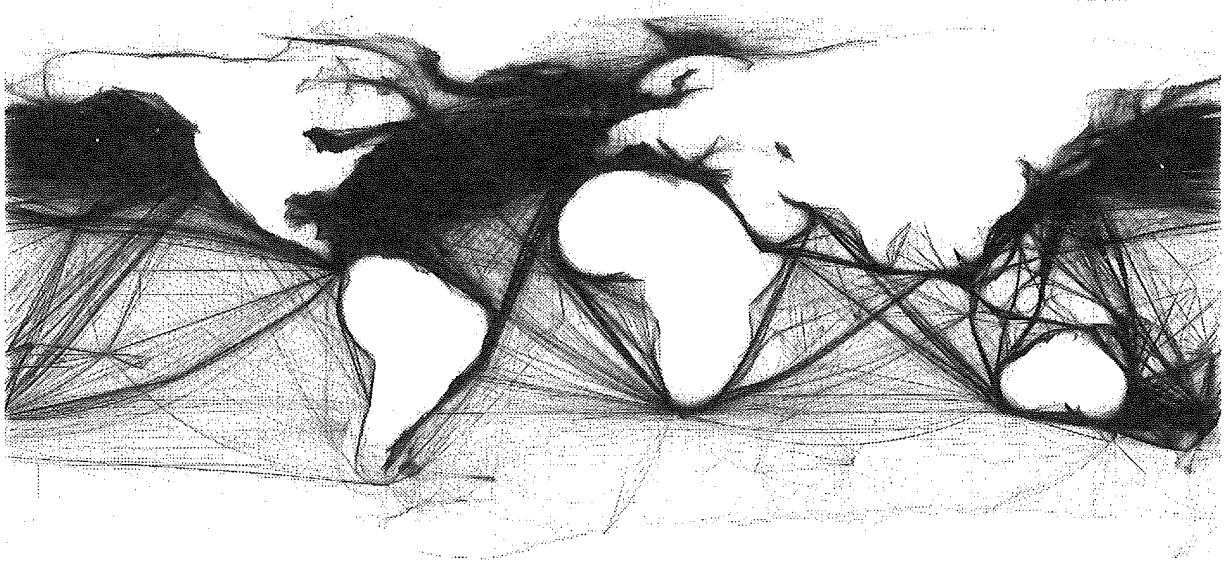


図1—3

図1—2と図1—3は、どちらもアメリカ海洋大気庁のデータを用いて Ben Schmidt氏が作成した地図による。